

みなさん、おはようございます。

夏休み中に、大きな事故の報告もなく、皆さんが安全に過ごしてくれたとにホッとしているところです。

一方で、国内では熊本地震や千葉豪雨、さらには石川・富山での大雨被害、そして海外ではネパールでの洪水で大きな被害が出た夏休みでもありました。被災されたすべての方々にお見舞い申し上げるとともに、犠牲になられた方々の御冥福と、一日も早い復旧、復興を心よりお祈りしたいと思います。

熊本地震では、家屋の倒壊やインフラ、ライフラインへの被害が大きく、支援や復旧等がなかなか進んでいません。特に真夏の災害のため、本当に厳しい避難生活や復旧作業となっています。そして、千葉豪雨では、気象警報見直し後、全国初のレベル5大雨特別警報が適用されましたが、主要河川は氾濫していないのに街が浸水し、浸水想定区域以外も多く浸水しました。警報に対する認識のずれや想定外の被害の拡大で、避難の遅れ等につながり、多くの方々が犠牲になりました。

もし、学校にいる時に同じ状況になったら、我々は行動できるでしょうか。きっと皆さんだけでなく、我々教員もパニックになり、動けなくなるかもしれません。また、教員が負傷し、皆さんを誘導できない場合もあります。地震が多い日本に暮らし、異常気象が当たり前になっている現在において、絶対的安全はないということを決して忘れてはなりません。学校は災害に強い場所ですが、それでも想定外のことは必ず起こります。だからこそ、いざという時に仲間と協力して、自分たちで行動できるイメージは持っておく必要があります。遠い地方の出来事としてとらえずに、自分や大切な人を守るために、自分事、教訓としてとらえることが大切です。

一方で、公的な支援として、自衛隊、消防、警察、医療関係者、自治体職員の方々等が派遣され、迅速な救助、支援が行われました。今回は D-EST 京都といって教育委員会職員や現職の先生が学校再開支援にも行っています。また、被災地の住民同士の助け合いやボランティアによる支援など、人の立ち直ろうとする力や、共助の力はあらためて本当にすごいと感じました。我々もそんな人間でありたいと思います。やはり、普段から、仲間との関係が、相手を大切にし、助け合い、応援し合える関係であれば、きっとそのように行動できると思います。

ところで、「ギユられる」という言葉を聞いたことはありますか。「シンギュラリティに

やられる」という若者表現の短縮版です。この「シンギュラリティ」とは「技術的特異点」と訳され、AI が人間の知能・能力を追い抜くことを意味します。技術進歩のすごさと同時に、仕事を奪われるという現代の労働不安を表しています。実際、皆さんも知っている「メタ」や「マイクロソフト」、他には「アマゾン」がAI の導入で、大規模な人員・役職削減を発表しており、その変化は着実に迫ってきています。

こう聞くとたしかに不安になります。しかし、よく考えれば、AI が仕事を奪ったというよりむしろ、AI はこれまでの仕事を、「誰にでもできる仕事（作業）」と「人間固有の価値を活かす仕事（判断、創造力）」に区別したとも言えます。

身近な例を挙げると、スーパーやコンビニで、対面レジに代えて端末レジにしたり、工場の汎用製品製造工程はAI 搭載のロボットで操業したりするのは、コストと効率を優先して誰にでもできる「作業」を置き換えた結果です。

反対に、端末レジがどのような音声指示や画面表示にすれば使いやすいか、1 台のロボットで複数の製造工程に対応できるように設計・製作するかなどは、「判断（創造力）」になります。環境や内容、ニーズに応じてアレンジ、デザイン、創造することが、人にしかできない能力になると思います。

では、この「判断（創造力）」のベースとなるのは何でしょうか。それは、学びを繰り返す「積み重ね」で得た知識や知恵、勘、コツ、そして感覚などです。普段でも、基礎基本を疎かにすれば、対応できない状況に度々出くわします。少し面倒くさいなと感じる課題や受験に関係ないと思えるようなことなども、別の場面につながります。例外だらけの人と人のつながりも同じです。デジタル社会ですが、アナログな経験がとても重要で、それが判断、創造できる人間力になるのです。

本日から2 学期がスタートします。まずは目前に控えた学校祭に全力で取り組み、青春を謳歌してほしいと思います。

そして、学校祭を思い切り楽しんだ後は、長い2 学期ですから、息切れしないように注意しながらも、新たな気持ちで勉強も、部活動も、学校行事も、全部頑張って、有意義な2 学期にしてください。そして「ギュられない」自分の土台を積み上げていきましょう。

特に3 年生は受験等が本番を迎えます。他者との競争ですが、自分との戦いでもあります。先生たちの力を借りながら、納得がいくまでやりきりましょう。

以上で式辞とします。

校長 田中 重春